



～シーズン2「清シス・アピール」

エピソード 1：シェアハウス住人と喫茶店で

しすてむ♥きよたけ

今回のシーズンは、僕が他者からどのように思われているのか、現在近くに居る人に尋ねてみた。清武システムズをアピールするといっても、ただでさえ何屋かわからないのに、自分で言うと胡散臭い。見た目も胡散臭いようなので、さらに胡散臭さに拍車をかけてしまう。今、僕がアピールできることは、「どうやら、胡散臭いらしいです」と言うことだけだ。そんなわけで、今住んでいる「シェアハウス」（＝僕は「アジト」と呼んでいる）の住人2名に僕について話してもらうことにした。

話してもらって、わかったのは、会話の微調整をしている様相があった。そこが、何より面白かった。人って、集うとそれなりに微調整をする。コミュニケーションの面白さだと思った。そして何より、色々してくれる人がいること、それより、胡散臭い見栄えで、しかも、「明日、暇？」と聞

き「あ、うん」とすぐさま協力してくれる人がいることは励みになる出来事だったと思う。

悪いニュースが多い中、不安に駆られる人もいるかもしれない。だけど、そう悪い日常生活ばかりではないような気がする。

今回のラインアップは、「1. 不安とチャンス」、「2. リサーチし始める人たち」、「3. 安心感はキャラ立ち」、「4. ふらつける軸」、「5. 結構意地悪」、「6. 見映えと会話」、「7. いじりいじられ」、「8. 趣味嗜好の塊」、「9. 分かり合えないけど違う道へ」、「10. 胡散臭いこと肯定」です！最後に後日談もあり。

1. 不安とチャンス



僕は、自分が思っている自分と他者が思う自分が違うらしい。大学院に入った2012年の後期、団先生

に「ギャップがある」と言われたことがあった。確かに、そう思った。と言うのも、自分がじっくりくる場がなく、どこにも所属している気がしなかった。例えば、男の中にいても同類と感じず、かといって、女の中にいても同類と感じなかった。女の中にいて、男を感じることは意識することはあった。他にも、学校で真面目と思われることもあれば、不良と思われたり。時間通りに行くのに、「遅刻しないように」、「一人でどっかに行かないように」と言われることもあった。僕はといえば、「うん。そのように思っていますが・・・」と思うのだった。

これって、「生きづらいんじゃないか？」と思うこともあったし、「社会で生きて行く上で、生きにくい選択をしている。」「もっと賢く生きた方がいい」「一般社員には絶対にならない方がいい」と言われた大学時代もあった。方や「清武らしくていい」と言われることもあった。

一体、僕は何なんだろうか・・・この意味不明だったり、画一されていない自分を社会に活かすことはできないのだろうか、と考えていた。でも僕は、決して生き上手ではない。人になかなか伝わらないことも多くある。自分が思う自分と他者が思う自分に隙間があれば、それはそうだろうと最近思うようになった。社会の何に位置づいている者なのか、不明だとすれば、それはそうだと思う。でも、僕はこれをチャンスだと思っている。



しかし、残念ながら、画一されていないから、具体的にどのようなチャンスなのか、自分で気づいていない。いや、これは言い訳なだけ。社会と人間がどのように生活を営み、役割や所属によって他者を認識しているのかをしっかりとわかろうとしなかったのだと思う。なんとなくわかっているけど、そこに入ることができなかった自分がいるのだろう。

2016年4月(だったと思う)。金沢に住んでいた僕に東京の仕事が舞い込み、月の半分を東京で過ごす計画が立った。その

前はホテル暮らしをしながら上京し、部屋が欲しいと思っていた。しかし、一部屋借りるのは金銭的に勿体無い気がした。そんなことを東京の仕事に誘ってくれた人に話していたら、シェアハウスに空きがあると教えてもらった。「ラッキー！もうそこに住めばええわ！！」。ここが、僕が「アジト」に住む経緯だ。チャンスだと思った。

空きを教えてくれた人から連絡先を聞き、電話をした。間取りを聞きたかったのだが、住んでいる人と様子について話してくれた。「腐女子」と「割と部屋に居るけど、文字起こしとかしてる人」が居る。「腐女子」が「料理」をするから、ご飯を一緒に食べたりのする。

そこで「あの～間取りは？」と聞いた。古い家で、1階がカラオケスナックでうるさく、そこといい関係ではない、住む部屋は6畳くらいかな～といった具合だった。もう、住むと決めていたし、行ってから過ごし方は考えようと思ったし、なんだか面白そうだな、と思った。

さてさて、ここから、トークセッション。他人に清シスの装置（＝僕）をアピールをしていただきます。

It's Show Time!!!

2. リサーチし始める人たち

清武：俺のイメージ言って～？

サバヲ：怪しい。何してるかわかんない。何で収益を得ているかわからない。未だに、お試して使ってみて（清武システムズは、何か変化を求めているが手立てがわからないという方は使ってみて！って言ってます）って入って、お金もらえるのかわかんない。順当なサイクルじゃない、わしは納品して（サバヲ氏は、服を作る職人さんです！）お金になるけど、それは、愛流くんにはないから、謎。けど、ちゃんとお仕事をしているようだし。けど、どう仕事をしているのかわかんない。

清武：最初・・・会う前は～？

サバヲ：この人まじで見ないで決めたの？

帆波：まじで、来るって本当に？！

サバヲ：住む部屋見ない。間取り聞いて、築40年って言って・・・住んでる人の情報もほとんど聞いてなくて、まじかよって。家は、寝る風呂とかあればいいけど、人ってさ～まじ合わないこともあるから、その時どうするんだろうって思った。そう言うリサーチって要らない人なんだと思った。

こう言う人ってダメってないの？わしは、あのCMに出て来るスパゲティのお姉さんはダメ。CM覚えてないけどあの人ダメ。って感じで、「無理無理やってけない」って

人

清武：え~~~~~難しいな。

サバヲ：わし明確にあるんだけど。でも、めんどくさいこは好き。

清武：あ！パリピは無理かも

帆波：ニドさん（以前住んでいたフランス人が、外国人向けサイトに掲載し、帰国し、日本人の僕らがあたふたしていた中、やってきた人）が最初にいたら？

清武：いたらいで、れそなりにやるかも・・・

サバヲ：ってことでこの人はどんな人なんだろうね。気になんないんだろうね。

清武：ってことはさ、俺さ人に興味ないのかな？！

帆波：なるようになるんだろうって思ってるんじゃない？人に興味なくはないと思う。下の人の話（うるさいスナック）をゆうさんが話して、サバヲさんが聞いてその話聞いた時・・・あるところに入って行って、楽しんで入っていける人なのかな~と思った。

サバヲ：なんかの研究やってるって聞いたから調べたけど、いくつか出て来たんだけど、なんか難しいからわかんない！わかんない！ってなった。

帆波：参与観察かな？と思ってた。何も知らずに ok で来るなら、参与観察かと思った。

清武：あ~俺、なんも考えてなかった。

サバヲ：なんもしなくなると、ポンといなくなるのは困るから、それは電話で言った気がする。って言うかそれ覚えてない。最初のメール思い出してごらんよ。あ、覚えてないなこのコ（=清武）。メール長くなる嫌だから、電話してこいって言った。電話するときどんなテンションで話したらいいかわかんない感じだった。この話、最初の1週間くらいでなんか言ってた気がする。

自分の立ち位置を構築して行こうとしている。だいたい、この時間に電話出られるって言ったならその通りに電話してきたし。ちゃんと、書いたメールを読んで電話してきている。物事はちゃんと理解している人だと思った。研究している人って話が通じるか、通じないかのどっちかだと思う。

3. 安心感はキャラ立ち

サバヲ：ただ、見た目が・・・

帆波：ひげにロン毛でさ~。不思議なキャラクターが立ってる。二人（サバヲ・清武）ともキャラ感が立ってる。

サバヲ：ぬぐいきれない何かがある。それ

で、わしは好きになりました～。だって、この感じで世にいるサラリーマンみたいな人だったらさ～。大抵的にメーカー勤めみたいな人だったら、どこに重きを置いているのかわかんない。かき分けてもかき分けても同じ顔が出て来る。不審。最初は、こうありたいってのはわかったから安心。

清武：??こうありたい???がじっくりこうへんわ～

サバヲ：完全にキャラ感があるじゃん。世の中には世に埋没したいって人がいる。目立ってはいけないと言う人。ではないじゃん！ヒゲメガネ、持ってるものにはこだわりがあって～みたいな。だから、キャラがつかめた。埋没しようとしていない。ここはわしが、人と関係作るポイント。プライベートと仕事の違う顔でもいい。

清武：ない人いるね～。会話、どうしていいかわかんないかも。

4. ぶらつける軸

帆波：今でもつかめないからな～。でも、ちゃんと軸のある人だと思う。

清武：結構ぶらつけいてるのにね～

サバヲ：結構ぶらつくって軸があるじゃん。ぶらつこうて軸がないとできないはずだよ。

清武：これ、絶対周りに恵まれてる、って言われると思うわ～!!俺、周りに恵まれてると思うんだよ～

サバヲ：いい人徳だと思うよ～



巻き込まれるの嫌いだけど、人を巻き込むよね。それ巻き込まれるしやめとけし、と思う。

5. 結構意地悪

サバヲ：怒ると怖い。すげ～怒ってる～怖～い、って思うときあるしね。多分この人のことこう思ってるって察していたり、雑談とかを愛流くんは覚えてる。

帆波：ちゃんと聞いてないけど、ちゃんと聞いてるんだって。愛流くん。

サバヲ：雑談のちょっとしたことを覚えてるんだよ～。あと、結構意地悪とかね。

清武：どの辺が？

サバヲ：自分ですくい取った案件を、投げて帰って来るとかね！おまえ～～もっと答え出してから帰ってこいや～～！「俺、もう聞いたしok」ってさあ～。

帆波：仕事フルの上手。散らかすし渡すし。

サバヲ：人のことをすごく観てるし、察するのにも上手なのに、「後はお前で考えろやっ」てほおるって言うね。とか言って、「そういえば、あれどうなったん？」って聞かれて「ドキ〜ッ」みたいなね。んで、近況報告をする、って言うね。

清武：聞いてて俺が面白いわ〜

サバヲ：聞いてて耳を塞ぎたくなることある。ほんとすみませ〜んって

6. 見映えと会話

サバヲ：こだわりの塊 タバコも巻いてるし

帆波：癖が強いのは確かだね〜

サバヲ：選べるアイコンが多い。アイコン？見える、選べるツールが多い。人は外見ではなく内面って言うけど、そうってわけじゃないと思う。

清武：俺は、それは思うね〜

帆波：持ち物にしても表情にしても、その人じゃないって人いるもんね〜

サバヲ：出会って 30 分くらいで「俺、ヒモ」って言ってたよね。最初家に来て、お茶出して・・・「ヒモで・・・エロ話」をバー

ンって突き出されて、この人安心した。一瞬でこの人、相手に話していいって思ったんだ、と思って安心。

帆波：あの日 ARIO まで行ったんだっけ？

清武：商店街まっすぐ行って、夕飯買うの付き合っって、そんな感じだったかな〜

サバヲ：その間に話す、話さないか・・・帆波ちゃんいる時に・・・それで、風俗嬢の彼氏って言うから、何！？それってなって、俺こう言う人です〜てわかった。

清武：普通に喋ってたんだけどね〜

サバヲ：5月9日に来たんだよね〜。

帆波：良く覚えてるね〜

サバヲ：その前までだったら忙しかったし、「黙っとれ！」になってた。人が去って（僕が入居できたのは、人が出て行き部屋が空いたからだった）寂しいね〜って言うてる間もなしだった。それでガリガリ棒（サバヲ氏がいつもご飯を作ってくれる。ササミの唐揚げで身と衣の間にカレー味。絶品）食って・・・

清武：あれ？俺、こんな日に生まれたんだよって言われてるみたいだね〜

7. いじりいじられ

清武：帆波からも言われたいよね～～。愛の告白でもいいけど!!

帆波：え～～～～。

清武：俺の嫌いなところは？

帆波：動きが気持ち悪い。



サバラ：ずーと言われてる

帆波：スタンプも。でも、フレンチブルのは可愛かった。使ってもらった～？

サバラ：あ～あれは可愛い

帆波：メガネとか持ち物とか「あ～いいね」って思うのに、スタンプはなんでこんなに気持ち悪いんだろうって思う。不思議なのは、小物のこだわりとは対照的に音楽にこだわりのないのは、愛流くんを表している気がする。

清武：どう言うこと??

帆波：日常を大事にする。「日常」ってよく話聞いてて、「キーワード」だなんて思うんだけど。音楽をBGMに聞いている・・・うまくいえないね・・・「これって入っていくよりは、広く聞いていて、その中でpick up」していて。何か聴こうって時は、愛流くん

はラジオだから、この曲聴こうってより、「出たところ勝負」って感じ。

後、ちゃんとゴッフマンをちゃんと読んだ方がいいよ！ゴッフマン参照しているのに、どんな人だっけ？って聞いてもわからんっていうし。あと、全体を見るのが得意じゃん。生徒会だったら副会長とか、全体見てないと、できないようなポジションにいると輝くんだろうな～って思う。

「マージナルま～～ん」って愛流くんのことと思う時がある。壁の上に立ってるから、俯瞰の視点。例えば、左にいる人は壁があることに気づかなかったり、別のところに属していることに気づかなかったりする。う～～ん、ある団体の外にいたら、おかめ八目。愛流くんは、よく俯瞰してるなって思う。だから、上にいる、位置づかないから見えている感じ。

清武：俺は、上にいる感じで上からめせんには見えないの？

帆波：パット見た感じが、全面に出てるから上からには、見えない

サバラ：話してて怖い感じが無い。わ～って言われる人って怖いじゃ



ん

帆波：目は、上にあるけど、身は対・人っ
て感じ

サバヲ：潜水艦みたいな感じ。「俺は潜伏し
ているけど、見えているぞ」って感じ

帆波：上からと俯瞰は違うもんね。気をつ
けておかないと、「どこから喋ってるの？」
ってなるかもしれないけど

8. 分かり合えないけど違う道へ

清武：二人ともいい人だね～

サバヲ：ダメなとこ～～？以外に粘着質。
「覚えてるんだ～～そこ～～」って。悪い
とこじゃないけど。

帆波：確かに。「今それ言う?!」ってこと
は、確かにあるかもしれない。

サバヲ：あんまり嫌なことされたことない
からわかんない。

清武：やなとこ

帆波：しつこいところ。同じだね。

清武：どこがしつこいの？

サバヲ：夜のラーメンとか焼肉食いたいと
か叫ぶところ

帆波：食欲がね～

サバヲ：でもちゃんと、本当に嫌がる一歩
手前でやめてくれるじゃん。

清武：そうなんだ～～

サバヲ：「本当に忙しいからやめて」って言
うとやめてくれる。

清武：すごいよこの話(笑)

帆波：「ダイエットしてるの？してないの？」
って思う。その気持ちを抱え続けてる・・・
私が考えることじゃないんだけどさあ～～

サバヲ：本当に青虫みたいな生活する？一
旦、インスタントラーメン食って、やる？

帆波：買ってくるも～～ン

サバヲ：愛流くんの経済を取らないと・・・。
でも、超我慢してると思うよ～インスタ
ントラーメン。本当にジブシーだよ。

帆波：会社員だとイメージつかない人だけ
ど、学生団体だったらイメージつくかも。
お金を稼ぐための組織にいると想像つか
ない。能力とか担当とか、会社の場合はは
っきり分かれているじゃない？そう言うのが
バラバラな組織だと、全体を見ている人の
役割って大事に持って、どこからどんな球
が出てくるかわかんないし～。だから、全
体を見ることの強みって生かされるんだろ
うなって思ったんだよね～。けど、他の部

分で上から見ている人っているのは立ち位置があるし、イメージがつく。清シスって、一定の仕事をするってわけじゃないもんね～ずっとジプシー

清武：俺が来てよかったことある？自分で聞くのもなんだけど。

帆波：絶対あると思うけど～。

サバヲ：面白い。馬鹿話ができる人材って大事。俗な会話ができて嬉しいよ。さらっと俗な話ができるって嬉しい。

帆波：あるんだけど、出てこない。・・・お仕事をくれた～！人を巻き込むのが上手だよね～。あと、お題いっぱい出してくれる。

清武：そのことは、帆波にとってどんな意味があるの？！

帆波：最初に仕事をくれた時に、こんなに丁寧に仕事もらったことないと思って驚いたのね。やるにしてもやりやすい感じで、断るにしても断りやすい感じでくれたな、と思って。すごい助かるなと思ったのね。・・・意味・・・？

清武：これまでとの違い？

帆波：なんだろう・・・お題出してってこんなに頼んだこともないし・・・でも、一緒に謎かけをするって方法もあるじゃん。人との関わり方として。けど、お題を出すってことで、飽きずにお題出してくれるから、

私に合わせてやってくれてるな～と思って、ありがたいな～と思って。

サバヲ：でも、人の知識量によって伸び縮みするよね～。視野にしても。バーバパパ。液状、半ゲル状な気がする。ブルースリーの格言にもあるじゃないですか～

帆波：「ウチョー」「アチョー」しか思いつかない。

みんな：ははははははは

清武：俺もわからへんけど、それ、俺も出してくると思うわ

サバヲ：物事を対話するのにね・・・そのモノに順応するように、自分の中にその許容を持つことが大切だよって言うんだよね。「ジークンドー」ってのを画一した人で。武術なんだけど、人を人を負かすためのものじゃなくて、伝えようとする思い、そのためのコミュニケーションツール。そのための武術なのね。これには、ぶっ殺してやるもその人が伝えようとするけど、その思いも入ってるの。人の思いはそう言う部分もあるから、わしは、好き。



帆波：愛流くんのその変わり方を見て思い出したのね？

サバヲ：うん。でもバーバパパなの。愛流

くんって人と話しても分かり合えないけど、違う道が見つかるんじゃないかと思って話している感じ。最初の持ち出してくる企画はちゃんとしてるから。「~~~~ってしようと思うけど。で、どうだと思う？」って話すから、別の回避面があるか感じて人と話してんなって思う。

9. 失敗を笑える住人たち

清武：あの～不満はないの？

サバヲ：だから～～～

帆波：もっと聞く？

清武：これ直した方がいいんじゃない？みたいなの。生活面でもいいよ。

帆波：勘が働いて、その勘当たって、動くけど、立場が悪い。だから、そういう立場をしないと、勘で動いていいとかそういうところにいないと。あ、歯磨きした後に食べちゃう。

清武：試着しないとかあるやろ？

サバヲ：それはそれで面白いからなあ～

帆波：それはサバヲさんがいるからできて、ミラクルが起きる。巻いた種がいい感じになってるよね。

サバヲ：はぐるま回ってる感あるけど、試

着はした方がいいかもね～。無駄金払うかもしれないじゃん。

帆波：サバヲさんいなかったらどうするのって感じじゃ～ん。

サバヲ：知らん間にピンチがチャンスに変わってるとはすごいよね～

清武：それはあんまり思わへんねんな～

帆波：そのポイントは？

清武：チャンスになってるって思っていない。

帆波：買ったパンツが入らないって結構ピンチじゃん

清武：あれ面白かったよね～

サバヲ：うん。まじでって思ったよね

帆波：全然入ってなかったじゃん、全然はけてもなかったじゃん。なんで買ったのかもわかんないじゃん。なんで買ったのって感じじゃん。

サバヲ：そういう感じも愛流くん感を体現してるじゃん



10. 胡散臭いこと肯定

サバヲ：愛流くんって自分をどんな人だと思ってるの？

清武：まずわかんないよね～。あ～すごくいい人だと思ってる～～！

サバヲ：どういい人だと思ってるの？色々種類あるじゃん

帆波：自分をいい人だと思うのも胡散臭いよね～口に出しちゃうのが

サバヲ：以外に真面目もうちょっとちゃんぽらんなんかなって思ったけど、最初の足がかりは作る。

清武：不器用だな～と思ってる。いい人につては・・・さっきの話じゃないけど、割に打ち切りするけど、完全に見放すわけじゃないんだよね～

サバヲ：だから怖い～！ピクって。子供のいたずらを見つけられた気がする。

清武：あとは～、悪いことするときちゃんというもん。あと、結構無責任に言うところもいい人だと思ってる～。でも、不器用だよね～あんまりいい基盤に乗ってない気がする。いい基盤が何かってわかってないけど。

帆波：そうかな？器用だな～とは思わないけど。不器用だな～とか言うけど、(出会い

系の) サクラできてたり、対・人は器用なんだよね～。器用なところが伸びるといいよね～

清武：これ、どこで終わったらいいかな・・・

後日・・・

この日は、近所で謎めいたアンティーク感ある小さなレストランに行った。4～5時間過ごしていた。僕らは、ほぼほぼ毎日顔を合わせ、夕飯を食べ・・・そんな日常を過ごしているにもかかわらず。それ以上に、ず～～っと一緒に過ごしていた。こんなに人と過ごすことって近年少ない。僕のこれまでの生活の中にもなかった。帰って来ても、夜の3時くらいまで居間に居た。この会話の流れのように、微調整がありながら、役割も変わっていく。それをそれなりの負荷も含めて自然に過ごしているのだろうと思った。

後日、帆波とリビングで二人になった。清シスについて話してくれた。「教育や福祉、居場所においてあるといいのかも。」僕は「でも、ここは制度や政策により給与が支払われる既存のシステムだから、そこは分けて考えた方が機能しそうだ。」「通常の会社でも機能しそうだとも思う」。帆波は色々な社会の場面を出してくれた。

僕は思った。社会にある通貨システムの中に僕を当てはめて考えると、すごく悩みきってしまう、と。それは、帆波が、「愛流くんは、依然として何とはいえないけど、何かを入れたら、ほらこんなに他の細胞がこんな動きになり始めました～」そこで、「なるほど～～」って思う感じ。「マニュアルや前例があるのではなくて・・・だから、その、頭がいたいからロキソニン飲んで治りましたじゃないけど、人間関係だから、それはそうなんだけど、意識されないうちにそこはかたなく変わっている感じはするんだよね～」と。

結局、やっぱりわからない。だけど、こんなに何をしているのか分からない人に対して、真剣に考えてくれる人たちはいるだろうか。僕が、今はっきり言えること。「僕、人との出会い方と出会う人たちに恵まれます！」

綴り人/しすてむ・きよだけ

[清武システムズ](#)という看板を引っさげ、活動中。さ～めんどくさいことも起きるけど、そこから面白く展開していこうじゃないか！という、通りすがりの旅人です。

「何か変化を求めているが、手立てがわからない。」そんな時にぜひ導入を！違う息吹ここにあり！

【連絡先】

info@kiyotakesystems.net